別添資料４

中高一貫教育について

中高一貫教育の概要

中高一貫教育の特色

中学校と高等学校の６年間を接続し、６年間の学校生活の中で計画的・継続的な教育課程を展開することにより、生徒の個性や創造性を伸ばすことを目的として、平成 11 年度から導入。

- 安定した環境の中で、６年間の学校生活を送ることができる。
- ６年間の計画的・継続的な教育課程を展開することができる。
- ６年間にわたり生徒を把握することができ、個性の伸長や優れた才能を発見できる。
- 学年の異なる生徒同士が共通の活動を通し社会性や豊かな人間性を育成できる。

中央教育審議会初等中等教育分科会学校段階間の連携・接続等に関する作業部会　平成 23 年７月

中高一貫教育の種類

「中等教育学校」

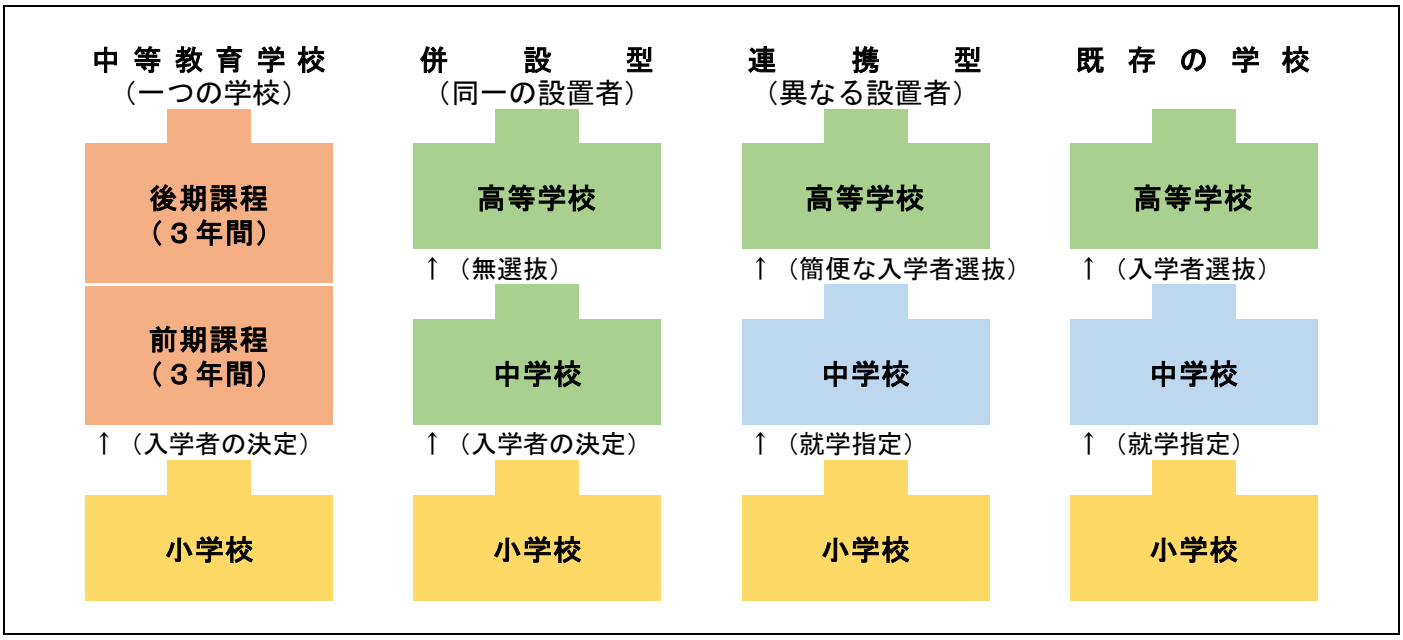
一つの学校として、６年間一体的に中高一貫教育を行う。

「併設型」の中学校・高等学校

高等学校入学者選抜を行わずに、同一の設置者による中学校と高等学校を接続する。

「連携型」の中学校・高等学校

市町村立中学校と都道府県立高等学校など、異なる設置者による中学校と高等学校が、教育課程の編成や教員・生徒間交流等の連携を深める形で中高一貫教育を実施する。



中央教育審議会初等中等教育分科会学校段階間の連携・接続等に関する作業部会　平成 23 年７月

中高一貫教育校の設置状況

設置形態	年度	岩手		東北		全国	
		公立	私立	公立	私立	国公立	私立
中等教育学校	H21	0	0	1	1	29	13
	H28	0	0	1	1	35	17
	R4	0	0	1	0	39	18
併設型	H21	1	2	7	13	64	183
	H28	1	2	10	20	88	377
	R4	1	2	10	23	106	426
連携型	H21	2	0	11	0	80	2
	H28	2	0	11	0	84	3
	R4	2	0	6	0	80	4
計	H21	3	2	19	14	173	198
	H28	3	2	22	21	207	397
	R4	3	2	17	23	225	448

学校基本調査 H21、H28、R4

※H13 軽米高校連携型導入、H14 葛巻高校連携型導入、H21 一関第一高校附属中学校設置

中高一貫教育における特例

		中等教育学校・併設型	連携型	一般の中学校高等学校
中学校段階	選択教科による必修教科の代替	必修教科の授業時数を、年間７０単位時間の範囲内で減じ、当該必修教科の内容を代替することができる内容の選択教科の授業時数に充てることができる。		
中学校段階 高等学校段階	授業内容の移行	①中学校と高等学校との指導内容の入れ替え ②中学校から高等学校への指導内容の移行 ③高等学校から中学校への指導内容の移行		
高等学校段階	普通科における単位数	普通科における「学校設定科目」・「学校設定教科」について卒業に必要な修得単位数に含めることのできる単位数の上限		
		３６単位まで		２０単位まで

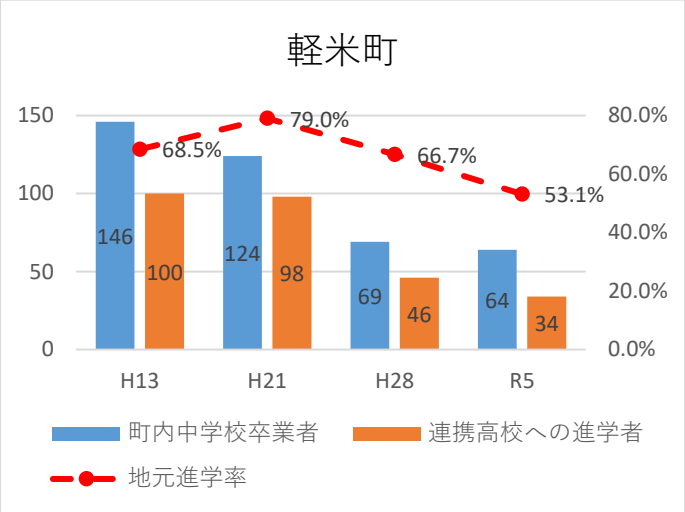
中央教育審議会初等中等教育分科会学校段階間の連携・接続等に関する作業部会　平成 23 年 7 月

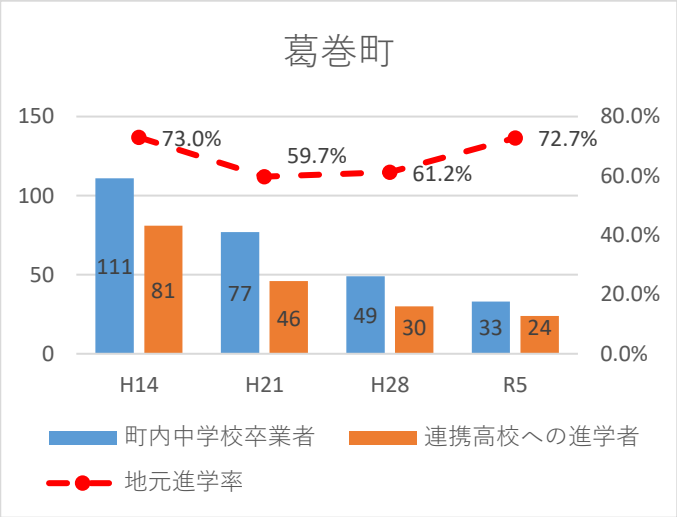
岩手県の中高一貫教育

形　態	連携型				連携型				併設型			
連　携 高　校	軽米高校				葛巻高校				一関第一高校			
連　携 中学校	軽米中学校				葛巻、小屋瀬、江刈中学校				一関第一高校附属中学校 （定員 70 名）			
導入年度	平成 13 年度				平成 14 年度				平成 21 年度			
入　試 方　法	・調査書及び面接 ・基礎学力の確認（参考）				・調査書及び面接 ・基礎学力の確認（参考）				入試なし			
充足率	年度	定員	入学者	充足率	年度	定員	入学者	充足率	年度	定員	入学者	充足率
	H21	120	103	85.8	H21	80	56	70.0	H21	240	243	101.3
	H28	80	48	60.0	H28	80	41	51.3	H28	240	245	102.1
	R５	80	37	46.3	R５	80	40	50.0	R５	200	187	93.5

軽米町、葛巻町の地元中学校卒業者数と地元進学率※の推移

※連携中学校卒業者のうち連携高校への進学者の割合



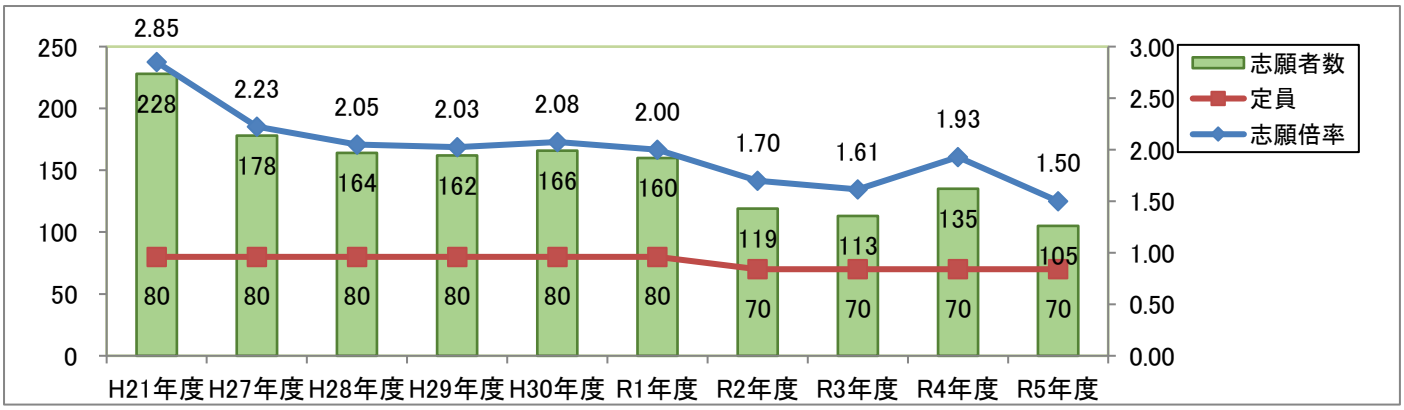


葛巻高校の「いわて留学」入学者（くずまき山村留学生※）の推移

年度	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	合計
入学者	1	2	3	1	6	14	10	11	4	52

※地元自治体等が生徒の生活環境を保障する学校として、入学者数の制限を設けずに、特例として実施するもの。

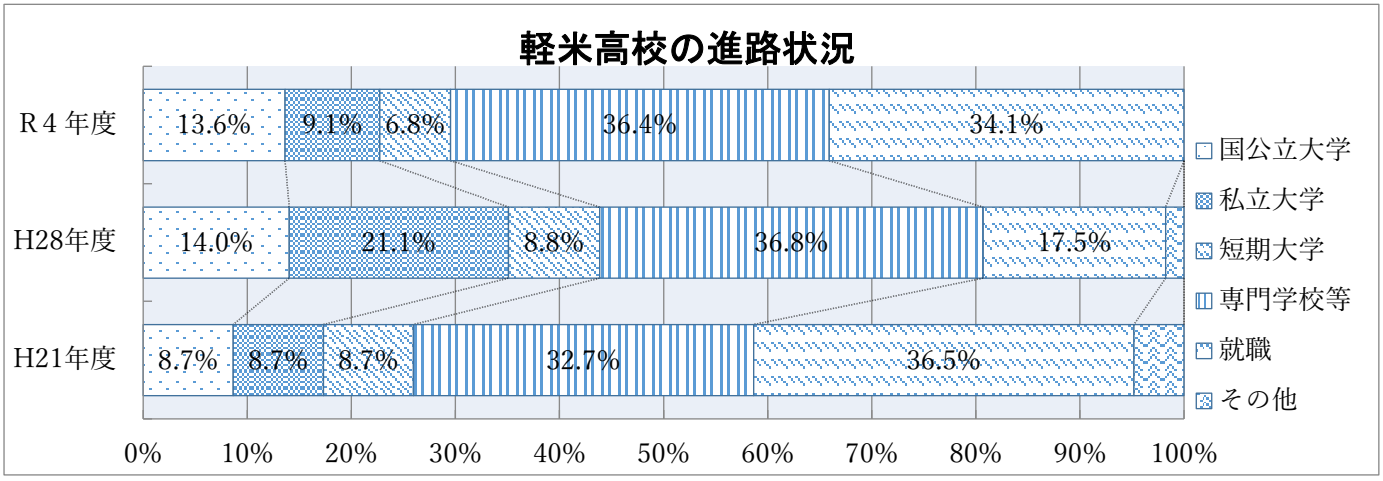
一関第一高校附属中学校の志願状況の推移

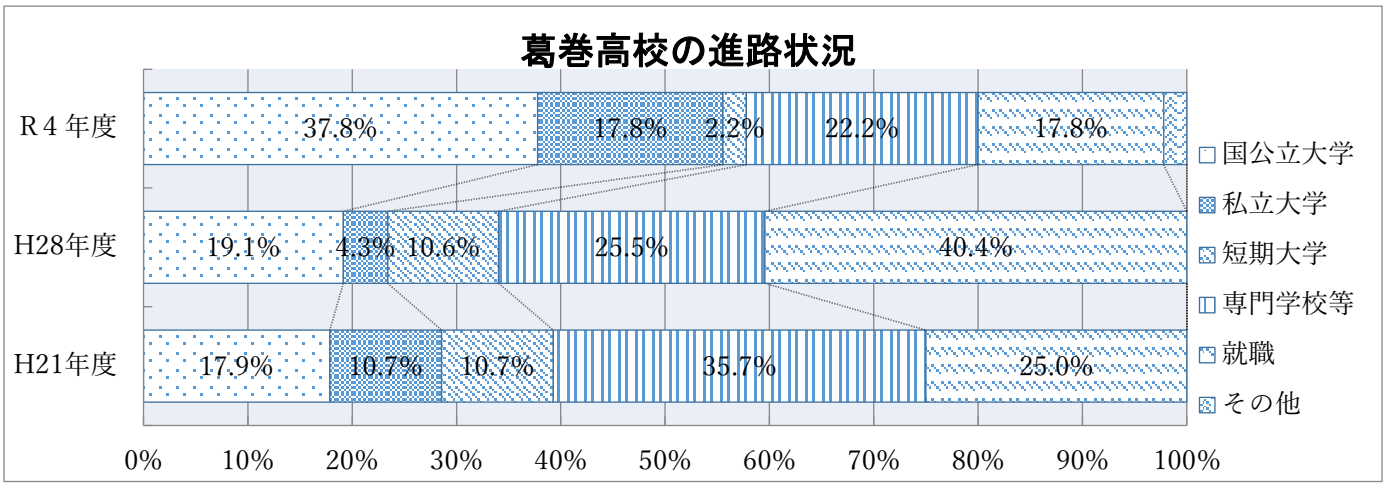


連携型中高一貫教育校の進路状況

高校		軽米高校			葛巻高校		
卒業年度		H21	H28	R４	H21	H28	R４
卒業者数		104	57	44	56	47	45
進学		61	46	29	42	28	36
	国公立大学	9	8	6	10	9	17
	私立大学	9	12	4	6	2	8
	短期大学	9	5	3	6	5	1
	専門学校等※	34	21	16	20	12	10
就職		38	10	15	14	19	8
その他		5	1	0	0	0	1

※大学校（短期大学校含む）、予備校等を含む。

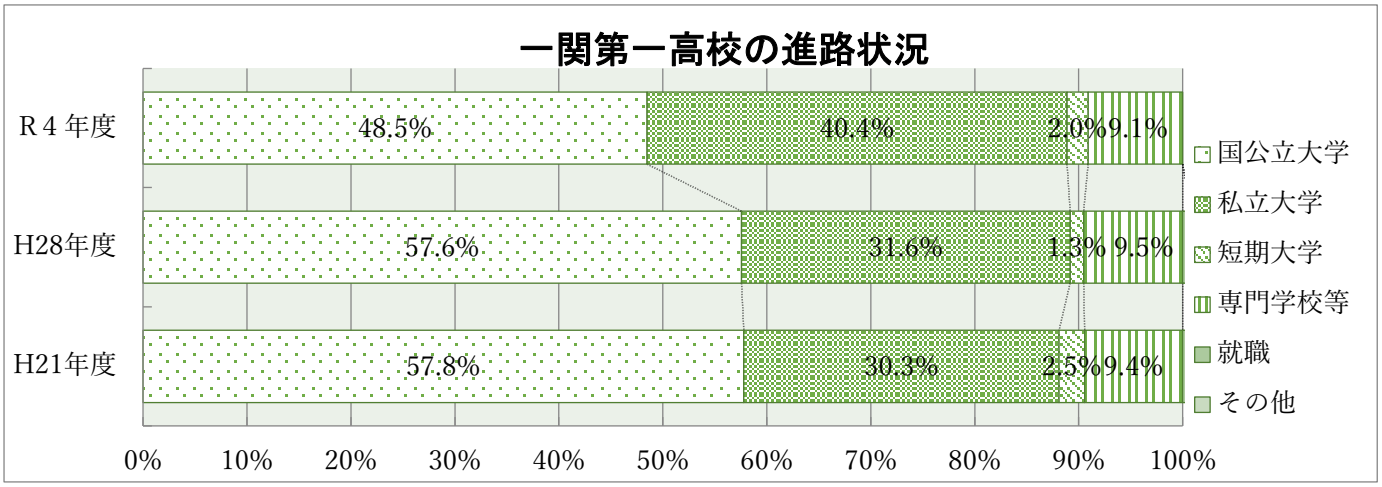




併設型中高一貫教育校の進路状況

高校		一関第一高校		
卒業年度		H21	H28	R４
卒業者数		247	233	198
進学		244	231	198
	国公立大学	141	133	96
	私立大学	74	73	80
	短期大学	6	3	4
	専門学校等※	23	22	18
就職		2	2	0
その他		1	0	0

※大学校（短期大学校含む）、予備校等を含む。



併設型中高一貫教育校の主な進学先の推移

＜医学部医学科＞

卒業年度	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
附属中卒	4	1	5	7	2	3	1	3	5
学年合計	6	3	7	8	3	3	1	3	5
附中卒の割合	66.7%	33.3%	71.4%	87.5%	66.7%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

＜難関大＞※旧帝大、一橋大、東工大、医学部医学科

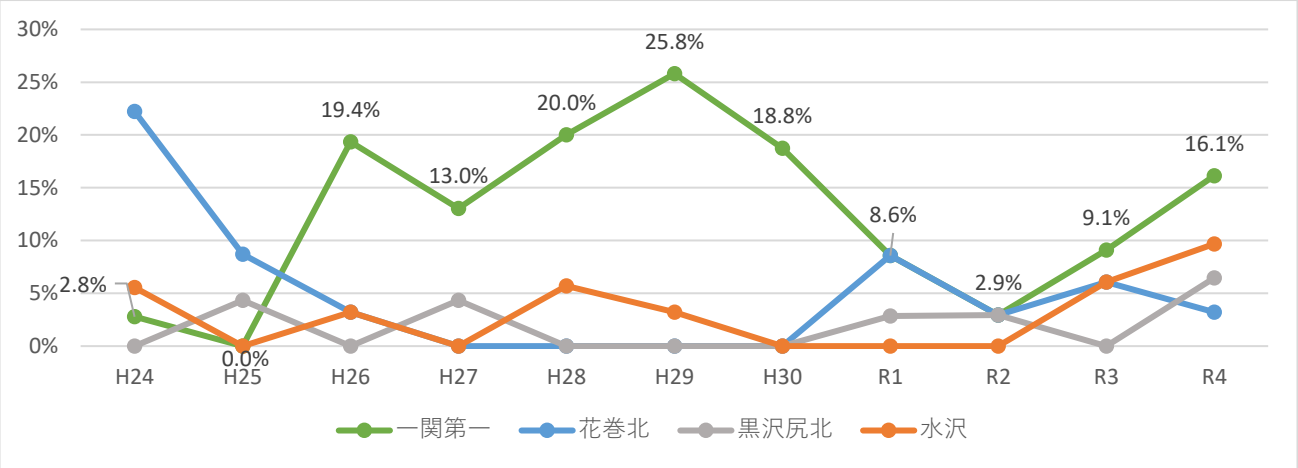
卒業年度	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
附属中卒	12	13	9	9	9	9	10	10	12
学年合計	29	26	23	23	16	14	13	19	14
附中卒の割合	50.0%	54.2%	60.0%	60.0%	64.3%	64.3%	66.7%	62.5%	85.7%

岩手中部・胆江・両磐地区進学校の主な進学先の推移（学校教育室調べ）

＜医学部医学科＞

卒業年度 / 高校	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
一関第一	1		6	3	7	8	3	3	1	3	5
花巻北	8	2	1					3	1	2	1
黒沢尻北		1		1				1	1		2
水沢	2		1		2	1				2	3
全県	36	23	31	23	35	31	16	35	34	33	31

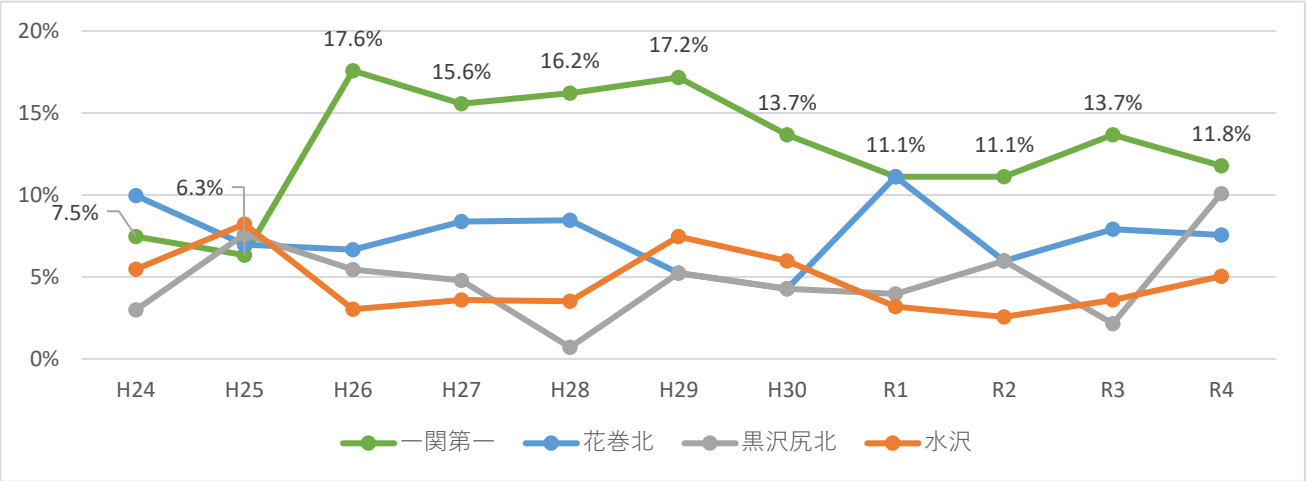
全県における入学者占有率の推移



＜難関大＞※旧帝大、一橋大、東工大、医学部医学科

卒業年度 / 高校	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
一関第一	15	10	29	26	23	23	16	14	13	19	14
花巻北	20	11	11	14	12	7	5	14	7	11	9
黒沢尻北	6	12	9	8	1	7	5	5	7	3	12
水沢	11	13	5	6	5	10	7	4	3	5	6
全県	201	158	165	167	142	134	117	126	117	139	119

全県における入学者占有率の推移



岩手県の連携型中高一貫教育の成果と課題

地域連携型中高一貫教育実践の目的

(1) ６年間を通じた生徒の目的意識を高めるための指導方法の構築
(2) 特色ある教育課程の編成の在り方の検討
(3) 中高一貫教育校における学校運営の改善充実

１　成　果

(1) ６年間を通じた生徒の目的意識を高めるための指導方法の構築

- 授業交流（中高教員による TT の授業）の継続的実施により、中高教員の指導力が向上し、生徒の基礎的・基本的内容の定着が図られた。また、生徒にとっては、中高でギャップを感じることなくスムーズな接続が可能になった。
- 中学校において、中高６年間及び高校卒業後の進路を見通した進路指導が、生徒が高校生活や高校卒業後の進路について目標をもって入学するようになった。
- 葛巻高校においては、大学への進学実績向上に伴い、連携型高校に進学して大学を目指そうとする生徒が増加した。
- 中高教員の密な情報交換、連携した対応などにより、中高生活指導の充実が一層図られ、学校不適応の問題をはじめ、生徒指導上の問題が減少した。

(2) 特色ある教育課程の編成

- 中高６年間を通して、地域学習をテーマとした特色ある学習活動を、生徒の学習レベルに応じて、計画的・継続的に取り組むことができた。
- 中学校美術教員と高校家庭科教員の相互乗り入れ授業を実施し、中高で特色ある学びの維持ができた。

(3) 中高一貫教育校における学校運営の改善充実

- 学校、地域、PTA、教育委員会の代表者による協議会や、中高全教員参加による部会等を開催することにより、学校運営においても、それぞれの意向を踏まえた連携を図ることが可能となった。

(4) その他

- 葛巻高校においては、くずまき山村留学の実施により、県外から一定数の入学者を確保している。

２　課　題

(1) ６年間を通じた生徒の目的意識を高めるための指導方法の構築

- 配置教員数の制約などにより、数学、英語以外の連携が難しい。

(2) 特色ある教育課程の編成

- 打ち合わせ、準備等に要する時間の確保が難しい。
- 町立中学校と県立高校という設置者の違いから、中高の柔軟なカリキュラム編成や、特色ある教育課程の編成に制約がある。

(3) 中高一貫教育校における学校運営の改善充実

- 授業交流、各種活動に伴う事前の打ち合わせ、準備の時間の確保が難しい。
- 取組みの改善に結びつけるための啓発活動の在り方を検討する必要がある。

(4) 入学者数の確保

- 中学校卒業予定者数の減少により、学校規模の維持に課題がある。
- 軽米高校においては、連携中学校からの進学率が低下している。

(5) その他

- 生徒集団が長期間固定されるため、新しい人間関係が構築しにくい。
- 地域の中学校の生徒減少に伴い、教員定数も減少傾向にあり、これまでと同様に事業を進めて行くことは、中学校教員の負担増加につながる可能性がある。

岩手県の併設型中高一貫教育の成果と課題

併設型中高一貫教育の理念

高等学校入学者選抜検査のない６年間の中高一貫教育の下、子どもたちがより深く学び、将来の進路目標を達成できるよう、特色ある教育活動を展開し、次世代のリーダーを育成する。

１　成　果

(1)　特色ある教育活動の展開

- 中学校教員の高校での指導、及び高校教員の中学校での指導により、６年間の計画的、継続的な探究的な学びを実践できた。
- ＳＳＨ事業において、異年齢間の協働を基盤にして中高一貫校における段階的な探究活動を実践できた。
- 高校入試にとらわれず中学校段階から探究的な学習活動を充実させることができた。
- 中高連携した部活動により中学校段階で高い技術等を身に付けることができた。

(2)　次世代のリーダーの育成

- 中高合同の進路講座や高大連携講座等により、生徒は中学校段階から進路意識を向上させることができた。
- 東大・京大等の最難関大学、医学部医学科への進学につながっている。

(3)　その他

- 中学校と教育相談的な支援を必要とする生徒の情報共有ができた。
- 顧客満足度を高め選ばれる学校にするため、各教職員が生徒保護者の不満要素・要因を分析・解決し、魅力ある学校づくりに取り組むことができた。

２　課　題

(1)　特色ある教育活動の展開

- 附属中学校から内進する生徒と高校から入学する生徒（外進生）の学力の差があり、外進生への学習指導が課題である。
- 中高両方の指導を担当する教職員の負担が大きい。

(2)　次世代のリーダーの育成

- 地域の中学校でリーダーになると見込まれる生徒が附属中学校に進学し、地域の中学校では新たなリーダーの育成が必要になる懸念がある。
- 当該校においては成果につながっているが、全県における難関大学、医学部医学科への進学者数の増加への影響までは見出せない。

(3)　その他

- 少数ではあるが、高校入試（学力検査）がないため学習意欲が向上しない附属中学生がいる。
- 小学校段階で、能力・適性、興味・関心に応じた進路指導が必要になる。
- 附属中学校には一関地域の教育相談支援員が配置されない。
- 中学校卒業予定者数の減少に伴い、附属中学校の受験倍率は低下傾向にあり、附属中学校及び高校では魅力発信の充実を図る必要がある。
- 中学校卒業予定者数の減少に伴い、地域の中学校の学級数や教員定数への影響の拡大が懸念される。
- 新たに併設型中高一貫教育校を設置する場合、教育施設の整備が必要になる。